

eco-op

～環境活動の手引書～

おすすめ①

環境活動を
これから
始めたい人へ

おすすめ②

環境問題の
現状をもっと
学びたい人へ

おすすめ③

環境活動の
取り組みを
知りたい人へ

はじめに

■ eco-opの発行目的

環境活動の意義とやりがい、そして具体的な活動例を伝えることで、全国大学生協連の各会員生協での積極的な環境活動の実践を促すために、全国環境活動推進委員会としてこの冊子を発行します。

■ 全国環境セミナー2018との繋がり

本冊子は、18年度の全国環境セミナーでの学びの内容を基に作成されております。そのため、セミナーに参加した方は学びの復習に、参加したことない方も、セミナーでの学びに触れるきっかけとなります。

■ 目次（クリックすればジャンプします！）

第1章：いまを取り巻く環境問題

[1-1. 人間が与える環境への影響](#)

[1-2. 資源問題](#)

[1-3. 大学生生活の環境負荷について](#)

第2章：環境を守るためにできること

[2-1. 世界のみんで目指す目標](#)

[2-2. 持続可能な開発って？](#)

[2-3. 私一人の守る力](#)

[2-4. 私たちの守る力](#)

[2-5. JUON NETWORKについて](#)

[2-6. JUONが行っている活動について](#)

第3章：学生委員会の活動

[3-1. よく実践されている活動](#)

[3-2. 学生委員会ならではの意義](#)

[3-3. 実際の取り組みを見てみよう](#)

このような人に見てほしい！

- ・環境問題について学びたい人
- ・数値などから正確に現状を見たい人

このような人に見てほしい！

- ・一人の人間としてできることを知りたい人
- ・世界の環境保全について知りたい人

このような人に見てほしい！

- ・実際の活動を知りたい人
- ・活動のやりがいを聞きたい人

いまを取り巻く環境問題

～人間が与える環境への影響～

◇人間が与える環境への影響

みなさんは普段「環境」について意識しながら行動していますか？
この章では、人間が環境に与える影響について学びます。

①EF(エコロジカルフットプリント)

エコロジカルフットプリントとは、「人間がどれほど自然環境に依存しているか」を示した指標です。木材などを生産している森林や、魚介類などをもたらす海洋・農場・牧草地といった、現在人類が消費している物を生み出すために**必要な生産性のある「土地」**を、架空の面積に置き換えて指標にしています。

この数値で表すと、日本が地球に与える影響力はどれだけになると思いますか？グローバルフットプリント・ネットワークの調べによると、

日本が地球に与える影響の大きさ



地球2.9個 世界で38位

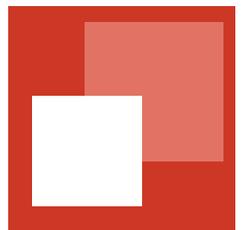
「2.9」という計算結果が2017年度に算出されています。

つまり、**日本人の生活水準が仮に世界全体のものとなった場合、地球が2.9個必要**になるのです。世界全体を見ても、地球が1.7個なければ全員の生活を支えることができないことになっています。私たちの生活は、日本でも、世界全体でも「地球が生産・吸収できる能力を超えてしまっている」のです。ちなみに、日本は世界で38番目に多い結果となっています。

詳しくはコチラ：https://www.wwf.or.jp/activities/lib/lpr/20180825_lpr_2017jpn.pdf

POINT !

地球3個分の環境負荷



いまを取り巻く環境問題 ～資源問題～

②資源問題

環境問題と言われたら、「水・電力」などの資源問題を真っ先に思いつく人が多いかもしれませんが、以下では、日本の環境問題について、資源の側面から見ていきます。意外と消費している資源の問題について、この機会に考えてみませんか？

水 (1日に216L消費)

右の表は普段の生活でどのくらい水を使用しているか、目安を表したものになります。数分間水を流しただけでかなりの水の消費がされていることがわかります。日本以外に目を向けてみると、例えばケニアでは1日に14Lしか使用できないというデータがあります。日本はかなり水に恵まれています、想像している以上に使用してしまっているかもしれません。限りある資源を大切にしましょう。

用途	使い方	使用量
洗面・手洗い	1分間流しっぱなしの場合	約12L
歯みがき	30秒間流しっぱなしの場合	約6L
食器洗い	5分間流しっぱなしの場合	約60L
洗車	流しっぱなしの場合	約90L
シャワー	3分間流しっぱなしの場合	約36L

森林

日本は森林大国で、約7割の面積を占めています。森林にはたくさんの機能が備わっており、私たちの生活に密接に関わっています。例えば、**落ち葉が地表の浸食を抑制することで土砂災害を防止したり、防風効果・ヒートアイランド現象の緩和をします。**森林伐採について、正しい知識で見ていくことが大切です。海外の森林を守るために国産材を使ったり、植林をすすめていきましょう。



大学生協の呼びかけによって、設立されたJUON NETWORKでは、森林を守る様々な取り組みがされています。めっちゃ気になる方は、上記の画像をクリック！！

食ロス

食ロスとは、売れ残りや期限切れ、食べ残しなど食べられるはずだったのに廃棄されたもののことです。日本国内の年間の食ロス量は**約632万トン**であり、世界が必要としている食糧援助量をはるかに超える量の食糧を捨てていることになります。対策としては、一人一人が食べ物を残さないなど、当たり前なことを心がける必要があります。



POINT !
自分たちが何気なく使っている資源の問題って？



いまを取り巻く環境問題

～大学生活の環境負荷について～

③大学生活における環境負荷は？

みなさんが普段生活している中で、どのくらい自分が環境に負荷を与えているか考えたことはありますか？地球に暮らす人間の一人として、環境問題は他人事ではありません。ちょっと気にかけるだけでも、みんなで取り組めば環境負荷を大きく減らすことができます。以下では、どのくらい環境に負荷を与えているのか、数字で表したある大学生の1日です。自分の生活もどのように少しずつ身の回りの環境問題を変えられるか、イメージしながら見てみましょう。

◇ 9:00

大学まで通学。大学まで自転車でいけなくない距離だが、自転車で行くのがちょっと面倒なので、車で大学まで通っている。



ちょっとの距離を車を使わずに自転車や徒歩にすると、1人あたり年間184kgのCO₂を削減することができます。これは1人あたりCo₂排出量の10%に相当します。つまり、10人が実践をすれば、1人分の年間184kgのCO₂を削減できます！

◇ 12:00

食堂が混雑していたため、コンビニでお弁当とお菓子を購入。たくさん買ったのでレジ袋を使った。

レジ袋1枚をつくるため、60gのCo₂を排出しています。1日のコンビニの来客数は平均で約850人。1人につきレジ袋を1つ渡したとして、 $60(g) \times 850 = 51kg$ のCo₂排出を進めているかもしれません。



◇ 18:00

自宅で夕食づくりのお手伝い。今日の夜のご飯は天ぷら。食後、油の廃棄のやり方が分からなかったので、排水溝に流した。



水質汚染の60%は生活排水が原因です。つまり、意識すれば半数は改善できます！

POINT!
日々の生活から環境を意識！





環境を守るためにできること ～世界の人々で目指す目標～

● 世界で目指す17の目標：SDGs（持続可能な開発目標）

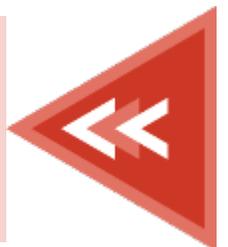


※各ロゴをクリックすると、各目標の説明が見れます！！

SDGs（持続可能な開発目標）とは2015年9月の国連サミットで決められたすべての国が2030年までに達成を目指す17の国際目標のことです。17の目標と169の数値目標から構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むものとして、設定されており、日本としても積極的に取り組まれています。

- ① 地球環境を将来に残す（環境保全）
- ② 今の私たち・将来生まれてくる人たちが生活できる（経済発展）
- ③ 人間の安全保障の理念を反映し、
「誰一人取り残さない社会」（社会的包摂性）

POINT！
世界で目指す目標がある





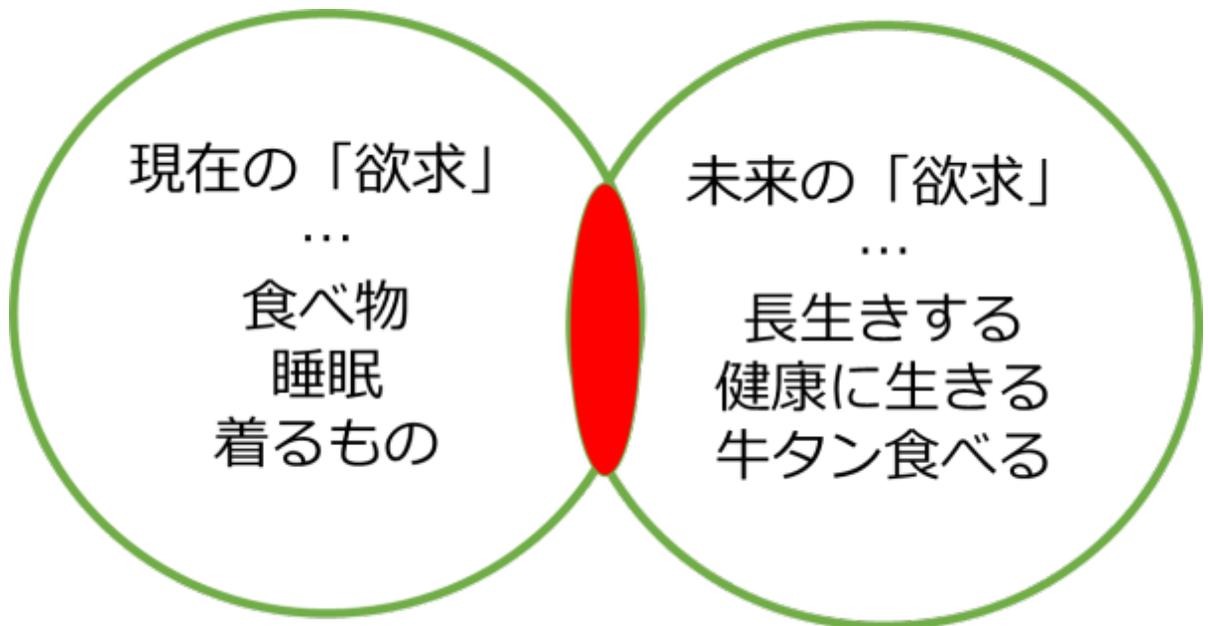
環境を守るためにできること ～持続可能な開発って？～

● 「持続可能な開発」の意味

**「将来世代のニーズを損なうことなく
現在の世代のニーズを満たすこと」**

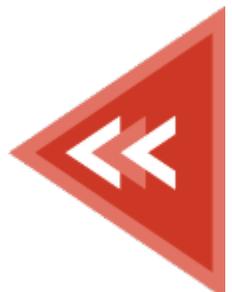
この言葉が生まれた背景を説明すると、1972年の国連人間環境会議の中で環境問題への取り組みが本格化したのをキッカケに、世界中で環境問題への議論が行われてきました。そして、1987年に「Our Common Future」と呼ばれる報告書がまとめられ、上記の持続可能な開発の概念が示されました。

● 上の言葉を図解すると、下の図の共通部分を満たすような開発を しましょうということになります。



POINT !

持続可能とは、
現在と将来の両方を考えること





環境を守るためにできること ～私一人の守る力～

● 個人でできる環境に配慮した活動・行動

以下に具体例を挙げました。他にもできることはあるので、考えてみましょう。

○生ごみを少なくする

→買い過ぎ・作りすぎがないようにして、食材を使い切る。

○ごみのエコな出し方

→正しく分別し、ごみを出すときはかさばらないように小さくして捨てている。

○ごみを出さない生活

→職場ではマイカップ・マイボトル・マイ箸などを持参している。

○照明の使い方

→照明器具はこまめに掃除をし、日中は自然光を取り入れて、照明をつけない。

○環境にやさしい買い物

→買い物へ行くときはマイバッグを持参し、ビニール袋は受け取らない

○冷蔵庫・冷凍庫の使い方

→熱いものは冷ましてから入れている。
冷凍食品は自然解凍を上手く利用。

● 環境活動の意義

環境活動の**意義**を考えることで、活動へのやりがいを感じて、周囲の人と一緒に取り組みやすくなります。活動に意義を感じる部分は人それぞれですが、ここでは学生委員が意義を考えるためのヒントを2つ出します。読者の皆さんもこのヒントなどを活用して、自分なりの意義を考えてみてはどうでしょうか？

学生という視点

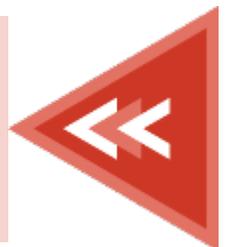
学生は、社会人になる前の準備段階であり、**これからの社会の担い手**でもあります。様々なことを考えたり知識をつける時間がある学生のうちに環境に配慮するのが当たり前になる状態ってどう思いますか？

大学生協という立場

大学生協は4つの使命の参加の中で**人と地球にやさしい持続可能な社会の実現**を目指すと述べています。また、生協の目指す**より良い大学生活の実現**には、環境も無関係ではなく、「より良い大学生活」のために環境活動をすることに意義はあるのではないのでしょうか？

POINT！

一人でもできることはある





環境を守るためにできること ～私たちの守る力～

● 他の人と一緒に環境活動することで大きな力となる

一人でできる環境活動は環境への影響としては小さいです。しかし、組織として皆で実践していくことで、環境へ大きな影響を与えることができます。一人一人が環境問題を「自分ごと」として捉え、率先してできることから動いていくことで、ほかの学生委員や学生委員ではない組合員など周囲の人を巻き込んでいくことで、環境を守る力はより大きくなっていきます。

- ・最初は同級生の友達や家族に「呼びかける」行動でも良い。
- ・学生委員の取り組みで、多くの人を巻き込めば、より大きな守る力となる

● 個人の環境活動への想いを広げる

より多く人を巻き込んでいくためには、環境活動への想いに共感してもらう、つまり**共感の輪**を広げていくことが必要です。自分の想いが他の人にも伝わるように、環境活動の意義について考え、「自分の言葉」で環境活動への想いを語れることを目指しましょう。

共感の輪を広げ、組合員も想いを持って、環境活動を実践していくことが、その場しのぎではなく、組合員が卒業してからも、環境活動を続けるキッカケとなります。

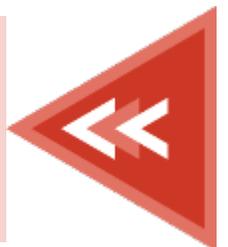
想いを深めるために
振り返る3つのポイント
(クリックするとページに戻るよ)

[現在の環境問題について](#)

[世界全体の動きについて](#)

[個人ができることについて](#)

POINT! 皆でやれば大きな力に!





環境を守るためにできること ～JUON NETWORKについて～

● JUON NETWORKとは



都市と農山漁村の人々をネットワークで結ぶことにより、環境の保全改良、地方文化の発展と普及、過疎過密の問題の解決に取り組むことを目的として、1998年大学生協の呼びかけによって設立された認定特定非営利活動法人（認定NPO法人）です。都市と農山漁村の循環と世代を超えた人々のつながりを取り戻す活動を通じて、持続可能な社会の実現を目指しています。



● 大学生協との関係性

大学生協が行った阪神淡路大震災での支援活動がキッカケでした。震災の時、多くの学生がボランティアとして駆けつけましたが、学生が「ボランティア活動や社会活動をしたいけれど『場』と『キッカケ』がない」という想いを口にしました。そこで、大学生協は、学生が活動できる場づくりと、都市と過疎地域とのつながりを作り、「まち」と「むら」をつなぐ架け橋になるという想いから、大学生協の呼びかけのもと、1998年に設立されました。



● JUONという名前の由来

JUONは漢字で書くと、樹恩となります。この言葉は最後の棟梁と称された宮大工の故 西岡常一さんの著書に出てくる樹恩という言葉が取られました。また、都市と農山漁村の人々をネットワークで結んでいくとの意思を込めて、「JUON（樹恩）NETWORK」と命名されました。

POINT !

「まち」と「むら」を結び、学生が
社会活動をする場を作っているのがJUON





環境を守るためにできること ～JUONが行っている活動について～



国内・外の森林の暮らしを、体験を通して学べる「森林の楽校」

森林は地球温暖化防止、水源涵養、災害防止などの役割があります。ところが今、手入れがされず日本の森林は荒れています。「森林の楽校（もりのがっこう）」では、森づくり体験・自然散策や地元の方々との交流などを通じて、森林・環境問題について学ぶことができます。ボランティア活動のきっかけとして、参加してみませんか？（2018年度は秋田、福島、群馬2、埼玉、東京、新潟、富山、長野、岐阜、京都、兵庫、徳島、香川、高知、佐賀&長崎の全国16ヶ所で開催）



都市と農山漁村を結ぶ架け橋 国産間伐材製「樹恩割り箸」

日本の森林を守るために間伐材・国産材を使うこと、障害者の仕事づくりに貢献すること、食堂の排水を減らすこと、この3つの目的をもって「樹恩割り箸」は生まれました。全国の知的障害者施設で製造され、70以上の大学生協食堂などで利用されています。

つくる人の顔が見え安全な「樹恩割り箸」は、まさに都市と山村を結ぶ「かけはし」となっています。



【連絡先】

認定特定非営利活動法人 JUON NETWORK（樹恩ネットワーク）

〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 大学生協杉並会館内

TEL：03-5307-1102 FAX：03-5307-1091

E-mail：juon-office@univcoop.or.jp

URL：<http://juon.or.jp/>

Twitter：<http://twitter.com/JUON98>

Facebook：<http://www.facebook.com/juonnetwork>



学生委員会の活動 ～よく実践されている活動～

● 学生委員会の環境活動の中から代表的な5つを紹介します

1. 環境についての啓発活動

環境問題や誰にでもできる環境に配慮した行動を機関紙やSNSなどを用いて、組合員に向けて広めていく活動です。学生委員会にて学生委員皆が興味を持ってもらえるように、学習会を実施する組織も増えています。



2. リサイクル容器の回収活動

(リ・リパック、ホッかるなどと呼ばれている)

フィルムを剥がすことで環境にやさしく再利用できるリサイクル容器の回収を啓発する活動です。組合員がリサイクル容器の意図を理解した上で回収活動に参加することで、環境活動について学ぶキッカケともなっています。



3. 割り箸回収活動

割り箸を食堂・購買で使っている生協は、割り箸の回収BOXの設置し、回収を呼び掛けています。回収された割り箸は、木材も原料とする紙などに再利用されます。JUON割り箸を用いている生協は、JUON割り箸の啓発と共に、回収を行っている生協が多いです。



4. バザー・リサイクル市場

本や家具など、一度使われたモノをゴミにするのではなく、別の人に安く販売することで、ゴミを減らしモノを必要としている人のためにもなる企画です。本のリユース市や4年生が卒業で不必要となる家具を新入生に販売する取り組みなどがあります。



5. 清掃活動

学生委員会や学生委員ではない組合員と一緒に、キャンパス内や地域を清掃する活動です。ただキレイにするだけでなく、掃除しながら地域のことを学んだり、参加者同士で交流するなどの取り組みがあります。





学生委員会の活動 ～学生委員会ならではの意義～

● 学生委員会の取り組みが目指すこと

大学生協が目指していることの1つに、人と地球にやさしい持続可能な社会を作ることが挙げられています。そのため、学生委員会の取り組みでも、現在の環境を守るだけでなく、将来の環境も守れるように意識が必要です。大学生協の特徴として、学生組合員は必ず卒業して社会に飛び立っていくことが挙げられます。したがって、学生委員会の取り組みなどをキッカケに、成長した組合員が社会に飛び立ち、環境を意識し生活をするすることで、大学生協は持続可能な社会に貢献しています。

学生時代



リ・リパックの回収活動を通して、「**一人の行動でも環境に貢献できる**」と気づく

社会人時代



一人の行動が力になることを知っているので、**レジ袋を受け取らない**ことに決めている。

● 環境活動を楽しむヒント

環境活動を楽しむ実践する会員生協が少しでも増えるように、ヒントとして2つの視点を紹介します。以下の2つのパターンで、どんな企画ができそうか考えてみましょう。

① ちょい足し
既存の企画に新しい視点を入れること

リ・リパック回収活動 + 回収BOXで投票企画をする

テーマを設けてリ・リパックによる投票活動という企画ができるかも？

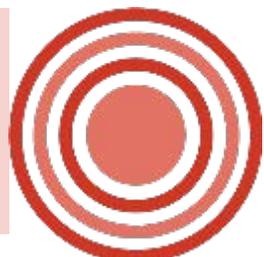
② 組み合わせる
環境と他分野を組み合わせ考えること

環境活動 × 総代会

総代が集まっている場で、リ・リパック回収の実践や学習会ができるかも？

POINT !

現在も将来も楽しく
環境活動ができるように！





実際の取り組みを見てみよう

- 事例紹介ページを見るときに意識してほしいこと

組合員の反応からは、企画を通して組合員が何を学んで成長できるかが書かれている。

イチオシPOINTからは、他の学生委員会が参考になる情報がまとめられている。

担当者からのエピソードでは、企画をすることで、担当した学生委員が感じたやりがいや、楽しかったこと等がわかる。

● **取り組みの概要**

エコプロジェクトでは、「紙パック/リ・リパック回収」、「ガラボン大会」、「リ・リパック企画」をなどの活動を行っている。
特にガラボン大会は、月に一度昼休みに開催し、回収対象であるリ・リパックや紙パックを組合員に持ってきてもらい、ガラボンに挑戦してもらおう。今年から、ガラボン大会を行う際に、リ・リパックについてのチラシも配布している。



ガラボン大会の様子。たくさんの組合員が参加してくれている。

● **組合員の反応**

★リ・リパックについて知らなかったけど、企画を通して知ることができた。[大学2年・女]

★気軽に参加できるからうれしい。これからはリ・リパックを積極的にはがそうと思う。[大学3年・男]

● **イチオシPOINT**

★集めるとガラボンを回せるという特典をつけることで組合員に楽しんでもらえる

★景品としてエコグッズを提供している

★学生協の電子マネーのチャージ券も景品であり、店舗との連携も取れている

● **担当者からのエピソード**

準備や片付けなど、忙しいこともたくさんありますが、たくさんの組合員に参加してもらえているのでやりがいがあります。参加してくれた組合員が、全国に参加したりチラシを見たりしてリ・リパックについて考えてくれているのが伝わってくると、とてもうれしいです！

- 今回取り上げた会員生協の取り組み一覧

- [北海道大学生協](#) 「環境活動 2018」
- [宮城教育大学生協](#) 「学内クリーンアップ」
- [東京学芸大学生協](#) 「環境LOVEになろう大会」
- [愛知教育大学生協](#) 「ミンミリパックの回収」
- [富山大学生協](#) 「LTE(Lunch To Environment)」
- [龍谷大学生協深草](#) 「環災縦断ウルトラクイズ」
- [関西学院大学生協](#) 「今日、エコをはじめます」
- [広島大学生協](#) 「エコプロジェクト」
- [福岡女子大学生協](#) 「環境にやさしくなりましょう講座」

POINT !
手法面だけでなく、結果までを意識して取り組みを見よう！





● 企画の背景・目的

- ・ 自然環境のすばらしさを知ってもらいたい
- ・ 北大構内の豊かで美しい自然環境を保全し、知ってもらいたい

● 取り組みの概要

北海道大学生協では、通年で環境活動に取り組んでいます。これまでに、

- ① **Twitterで大学構内の美しい自然環境を紹介**
- ② **書籍店で環境に関する書籍を紹介**
- ③ **ごみ拾いの実施**

などの活動に取り組んでいます！

手段にとらわれず、様々なかたちで環境活動に継続的に取り組んでいることが特徴的です。北海道にはリ・リパックを容器として使用する文化がなく、環境活動について考える機会は必然的に少ないです。しかしだからこそ形式にとられない活動ができていますのかもしれませんが。

● 組合員の反応

- ★ Twitterのアンケート機能で環境に関するアンケートを行い、多くの反応を得ることができた
- ★ ツイートに関するアクセス数も好調だった様子
 - * ツイートアクティビティ

● イチオシPOINT

- ★ 書籍を紹介するなど、お店という場を活用して身近な環境活動ができています！
- ★ 通年で活動を行い、組合員が継続的に考えられる！



[担当者からのエピソード]

これまで学際で環境活動をしていた経験を活かして、新しく環境活動として行えた点はよかったです。
社会的活動は忘れがちですがとても重要なので、この活動で得た経験をこれからも活かせるように頑張ります！



宮城教育大学（東北BK）

学内クリーンアップ

● 企画の背景・目的

- ・背景：構内にタバコの吸い殻やポイ捨てが多い（喫煙者である組合員が多い）
- 目的：簡単にできるゴミ拾いという活動を通して、組合員に身の周りの環境に興味や関心を持ってほしい



△ 組合員の参加も！

● 取り組みの概要

クリーンアップで学内、心もびっかびか！

- ・毎月第3水曜日の昼休みに
行っている構内の清掃活動
- ・主に駐輪場や校舎の周りの清掃を行う
- ・毎月第2水曜日に行われる総代の集まりである「総代セッション」やポスター、Twitterで参加の宣伝を行っている
- ・当日の参加の呼び込みも行っている



△ 環境部局が中心

● 組合員の反応

- ★吸い殻やゴミが目立たなくなった！
- ★組合員の参加も徐々に増えてきている！
- ★参加者どうしの交流もあり、単なる清掃活動で終わらないところが魅力的！

● イチオシPOINT

- ★とにかく手軽にできる！
- ★自分の過ごしている環境に目を向けるきっかけになる！
- ★教育大ならではの「組合員が将来、教員になったとき、環境に目を向け、行動することの大切さを伝えられるようになってほしい」という思いが感じられる！



[担当者からのエピソード]

これからも継続して行っていきたい活動です。そして、環境に興味関心を持つ組合員が増えてきていると感じますが、もっと参加者を増やしたいです。また、この活動を通して知った大学の現状を周知する活動も行っていきたいです！



環境LOVEになろう大会



● 企画の背景・目的

- ・背景1：東京ブロックで行った連帯企画（社会的課題の推進分野を考えるもの）に参加し、自大学でも取り組みたいと思ったから。
 - ・背景2：学生委員会内で環境への意識が低く、まずは学生委員が興味を持つべきだと思ったから。
- 目的：学生委員が環境に興味を持つ

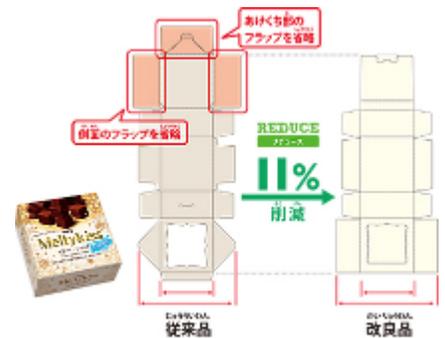


△ 大賞授与の様子です

● 取り組みの概要

学生委員自身が環境について何か気にして行動を起こし、行ったことを企画担当者まで報告します。期間内で企画担当者の一番心に響いた人が優勝ということにして、景品（環境に配慮したパッケージのお菓子）も置いていました。

表彰は部会の中で行われ、期間が終わってからも環境に意識を持てるようになっていました！



「Meikyaku」と各種の菓装箱

△ 説明した資料です

<http://www.ecology-life.jp/manufacture/m/meiji/2/>

● 組合員の反応

★多くの学生委員が参加し、「コンビニでレジ袋をもらわなかった」「風呂のお湯で洗濯した」など身近なことから環境を考えた。

★学生委員会内で環境問題に意識が芽生え、自大学の活動が活性化されるようになった。

● イチオシPOINT

★連帯での学びを自大学に必要な形（意識がないからまずは内部から）で持ち帰ることができた。

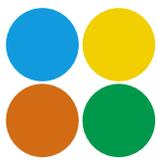
★参加する過程で調べることで、環境問題を自分事として捉えることができた。



[担当者からのエピソード]

日常で行えるような環境活動をお互いにするすることで、レジ袋をもらわないこと、シャワーの時間を短くすることなど本当に身近なところから活動できることを実感出来た。具体的に環境問題へ貢献しているのかということを実感できると、より意識付けしていけると思う。





愛知教育大学（東海BK）

ミンミリパックの回収

● 企画の背景・目的

- ・ 常時活動で行っていたミンミリパックの回収数が減少していた
- ・ 組合員がミンミリパックのことを知らない

→ミンミリパックの存在や正しい回収方法を知ってもらう



△「環境戦隊まもるんじゃー！」として環境活動を呼びかけている様子

● 取り組みの概要

「環境戦隊まもるんじゃー！」

学生委員がレンジャーに扮し、組合員に環境活動の周知を行いました。

「とどけミンミリタワー」

購買のエントランスにタワーを設置し、ミンミリパックを積み上げてもらい、目標に達したらキャンパスペイのポイントをつけました。



△ミンミリタワー

● 組合員の反応

★目立つ格好で活動をしたため、組合員が気に留めてくれた

★売りの近くで活動したため、内製井を買った人に周知することができた

● イチオシPOINT

★目立つ格好や場所で呼びかけて、積極的な呼びかけをしている

★ミンミリパックの回収を可視化（タワー）することで取り組みを組合員にも実感してもらえる



[担当者からのエピソード]

レンジャーの格好をして外を歩くのには少し抵抗がありましたが、目立つ格好のおかげで組合員の反応も良かったのでやりがいがありました。回収率などの結果からも、より多くの組合員に環境活動について周知できたと思います。



富山大学（関西北陸BK）

LTE（Lunch To Environment）

● 企画の背景・目的

- ・背景1：
富大生が環境活動になかなか取り組んでいない！
- ・背景2：
学生が気軽に取り組める活動が、昼食時の弁当やペットボトルキャップ！

→目的：

組合員が**気軽に環境活動に参加する**とともに、**環境に対する意識を持ってもらう**。

● 取り組みの概要

①エコキャップ回収

- ・ごみ箱の近くに回収箱を設置する。
そのとき、回収箱の中に仕切りをつけて、質問に答えてもらうようにする。
- ・季節にあわせた回収箱も設置する。

②デポ井容器回収

- ・デポ井売り場に立て札をつくる。
- ・デポ井のポスターをつくる。



△エコキャップ回収箱「はじめ君」
節分にちなんで鬼の回収箱です！



△デポ井容器売り場の様子
実物を用いた立て札で、呼びかけています！

● 組合員の反応

★エコキャップ回収

3週間で**540個**回収！

★デポ井容器回収

本物を用いた立て札によって、
回収方法が大変分かりやすくなった！

● イチオシPOINT

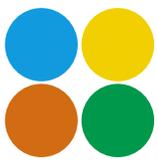
★身近なところから環境に目を向ける取り組みができていところ。

★目に見える成果が見える取り組みであるところ（ペットボトルのキャップ数など）。



[担当者からのエピソード]

季節に応じた回収箱を作成することで、「自分自身も環境活動に気軽に取り組みたい！」と思えるようになりました！また、エコキャップの回収にあたっては、日を重ねるにつれて、回収数が増えていったのが大変うれしかったです！



環災縦断ウルトラクイズ

● 企画の背景・目的

- ・背景
龍谷大学のリリパックの回収率が3%で、
なんとかしたいという気持ちがあった。
- 目的
組合員に環境や防災に興味関心を持ってもらう。

● 取り組みの概要

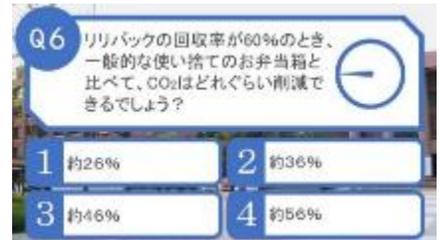
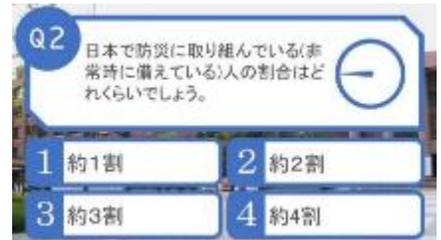
龍谷大学生協の総代会の企画の一つである分科会内で「環境×防災」というテーマでクイズ形式で行われた。クイズではその解答に解説を加える形で知識を広めた。また、ラップを用いた防災グッズを実際に触れることで身近に感じてもらった。

また、最後にリリパックに関する回収方法のアンケート(どのようにすればリリパックをきれいに回収できるか)に答えてもらい、今後の活動に活かす。

総代会ではリリパックのお弁当を用意し、その場で実際に体験してもらった。



△ 分科会の様子



△ クイズのスライド

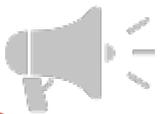
● 組合員の反応

参加者数：15名

- ★クイズには積極的に参加し、クイズの解説も聞き入っている様子だった。
- ★リリパックの存在を今日初めて知った、という参加者がほとんどで、回収方法まで考えるのには少々苦戦していた。その後、現在の回収率は回収BOXの工夫や情報宣伝などの効果もあり、10%近くまで上がった。

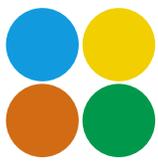
● イチオシPOINT

- ★総代会の場を活用できている！
- ★総代会で組合員から取り入れた意見から企画に反映させようとしている！
- ★実際に組合員に体験して実感してもらう工夫がある！
- ★クイズなど組合員に関心や興味を持ってもらいやすくする工夫がある！



[担当者からのエピソード]

龍谷大学ではリリパック(環境)や防災の企画を行ってききましたが、どうしても継続で取り組むことができず悩んでました。総代会という組合員に参加してもらえらる中で学生委員にも知ってもらいつつ広めていきたいと思い、この企画を考えました。



「今日、エコをはじめます」



● 企画の背景・目的

- 環境について感心の薄い組合員が多い。
 - 環境について学ぶ機会が日常生活、大学生活で少ない。
- 組合員に環境活動に関心を持ってもらい、主体的に考え、日々の行動を見直してもらうための一助となる。
KGGIが活動で得た環境についての知識や経験を組合員へと還元する



● 取り組みの概要

- ・環境についてのストーリー性のある動画を見てもらい、環境に良い行動と悪い行動を見つけてもらい解答用紙に記入してもらう。
- ・環境に関することをゲーム形式で考えてもらい、環境に少しでも興味を持ってもらう。
- ・動画を見てもらうことで、普段の行動を見直すきっかけとする。



● 組合員の反応

- ★環境にいいこと、悪いことを探すことで自分の行動に気をつけようと思うことができました。
- ★良く考えられたビデオだった。環境について考えさせられた。

● イチオシPOINT

- ★環境ブースは問題の提起をした後動画という形で解決して、その後組合員それぞれの日常生活で意識してもらえよう呼びかけた。その中で、組合員と密に接することができること！



[担当者からのエピソード]

今回の環境ブースは全国環境セミナーの学びを自大学にあった形で活かし、組合員に還元できた企画だと思う。参加人数もかなり多く、組合員からの直接の声が聞いたことも良かったと考えている。





広島大学 (中国・四国BK)

エコプロジェクト

● 企画の背景・目的

- ・背景1：組合員の環境に対する関心が低い
 - ・背景2：リサイクルできるものが普通に捨てられてしまっている
- 目的：環境に対して興味を持ってもらい、エコの輪を広げる



△ 企画の際に製作したチラシ。部員の才能が輝いている。

● 取り組みの概要

エコプロジェクトでは、「紙パック/リ・リパック回収」、「ガラポン大会」、「リ・リパック企画」をなどの活動を行っている。特にガラポン大会は、月に一度昼休みに開催し、回収対象であるリ・リパックや紙パックを組合員に持ってきてもらい、ガラポンに挑戦してもらう。今年から、ガラポン大会を行う際に、リ・リパックについてのチラシも配布している。



△ ガラポン大会の様子。たくさんの組合員が参加してくれている。

● 組合員の反応

- ★リ・リパックについて知らなかったけど、企画を通して知ることができた。(大学2年・女)
- ★気軽に参加できるからうれしい。これからもリ・リパックを積極的にはがそうと思う。(大学3年・男)

● イチオシPOINT

- ★集めるとガラポンを回せるという特典をつけることで組合員に楽しんでもらえる
- ★景品としてエコグッズを提供している
- ★生協の電子マネーのチャージ券も景品であり、店舗との連携も取れている



[担当者からのエピソード]

準備や片付けなど、忙しいこともたくさんありますが、たくさんの組合員に参加してもらえているのでやりがいがあります。参加してくれた組合員が、企画に参加したりチラシを見たりしてリ・リパックについて考えてくれているのが伝わってくると、とてもうれしいです！



● 企画の背景・目的

- ・福岡女子大学は1年次全寮制の大学で、寮費は水道光熱費代込みで15000円となっているため**使い放題と考えている人が多く**寮の赤字問題は年々深刻化している。
- 全国環境セミナーに参加した大学生を中心に、学生寮で環境問題について考える講座を設けた。



● 取り組みの概要

「環境問題は身近に感じられること」
 「自分たちに出来る事はいくらでもある」
 をテーマに学習会を行いました。
 具体的には自分たちが使用している電気をお金の面やCO2排出量、健康への被害などから見つめ、**このままではやばいと思ってもらえるような内容**などがありました。

じゃあ、1日にどれくらい電気使ってCO₂排出してるんかな？

もの	時間・回数 など	排出量 (g)
携帯の充電器	1時間	0.74
シャワー	1分	60.13
ドライヤー	1分	11.36
クーラー	1時間	315
テレビ (255W、42インチ)	1時間	150.82
換気扇 (お風呂場)	1時間	2.35
ペットボトル (500ml)	1本	70
蛍光灯 (60W)	1時間	35.47

実際に計算してみよう！

● 組合員の反応

- ・企画後にリ・リパックの回収率が5%上昇。
- ・電気だけでなく水も節水する人が増えた。
- ・移動手段として階段を使用する人が増えた。

● イチオシPOINT

- ・大学の現状に合わせたセミナーの持ち帰りができている点。
- ・学生委員以外も企画の運営に携わっている点。
- ・学部にあった内容で参加者の興味を引きやすい点。



[担当者からのエピソード]

福岡女子大学の現状に合わせて、「全国環境セミナーの学びを広げたい」という想いを実現することができた。このような取り組みがどんどん「ひろがって」「つながって」行ってほしい。



